

第37回はばたき陸上大会 申合せ事項

- 1 ナンバーカードについて
ナンバーカードは主催者の用意したものを競技用シャツの胸部と背部につけること。
車いす競技者の場合は競技審判員にわかりやすいように前面と背部につけること。
走高跳に出場する競技者は、背または胸につけるだけでよい。
- 2 練習について
 - ①練習場所については、テニスコートをウォーミングアップエリアとし開放する。
競技の行われていない場合でも、レーンへの進入及び、逆走は危険なのでしないこと。
 - ②フィールド種目の練習については、競技時間開始前に競技審判の指示に従って行うこと。
 - ③テニスコートでのスパイクの使用は禁止とし、スパイクの使用は運動場のみとする。
- 3 招集について
下記の時間に招集所に集合し審判員の確認を受けること。
競技開始40分前に集合開始とし、15分前を招集完了時刻とする。
- 4 競技について
令和6年度版「全国障害者スポーツ大会競技規則集」を基に作成したセンタールール及び本大会「申合せ事項」を適用する。

【トラック】

- ① トラック競技において同一区分でレースが複数となる場合は、各組ごとの決勝とする。
- ② 競技区分24・25の50Mは音源走で行う。6レーン分の幅を使用する。競技者が競技役員による声の誘導(案内)に従えず、コースアウトなどの危険が生じると競技役員が予測した場合には、競技者に対して笛とピストルの合図により競技の中止を求める。競技者は速やかに競技を停止すること。
なお、この場合は再レースは行わず、競技者はコースアウトにより失格とする。
伴走者付きで音源走に参加する場合、オープン参加(表彰対象外)として参加を認める。
- ③ トラック競技で他の競技者を妨害した場合は、その競技者を失格とする。なお、この場合は再レースは行わずレースは成立したものとする。
- ④ 競技で使用するアイマスクは、競技者が用意し、招集場所で審判員の確認をうけること。
- ⑤ セパレートレーンで行う視覚障害者のトラック競技で、伴走者を伴う競技者にはスタートラインを延長して、1競技者に1つ外のレーンを含む、2レーンを割り当てる。この場合、2レーン内であれば競技者と伴走者が、内側・外側のどちらを走るかは任意とする。
- ⑥ 全ての競技区分の800mと4×200mリレーのスタートは、オープンレーンで行う。
- ⑦ 知的障害者(障害等級1、2度)の800m、1500mでは、伴走者を認める。
伴走者は声掛けによるコースの指示をしても良い。一人の伴走者が複数の競技者を伴走しても良い。
- ⑧ 知的障害者(障害等級1、2度)の800m、1500mの伴走者は以下の行為をしてはならない。
 - ・手を引くことや背中を押すなど、身体に触れて助力となるような行為。
 - ・トラックを逆走するなど、他の競技者に対して妨害となったり、混乱を招くような行為。※ ただし、コースアウトするような選手に対しては、助力とならない程度に身体に触れても良い。
- ⑨ 30m、スラロームのスタートはホイッスルで行う。
- ⑩ 出発の合図は「On your marks :オン・ユア・マークス」意味:(位置について)
「Set: セット」意味:(よーい)で姿勢を保持した後、ピストルを発射する。
- ⑪ 本大会においては、不正スタートがあった場合、スタートのやり直しをする場合がある。
- ⑫ 陸上競技用車いす(レーサー)を使用する競技者はヘルメットを着用して競技しなければならない。
また、日常生活用車いす等で出場する場合も極力ヘルメットを着用すること。

【フィールド】

- ① 跳躍(走高跳除く)及び投擲競技の試技数は3回とする。また、投擲競技で車椅子、投擲台を使用する区分では原則として3回連続して投げるものとする。なお、車椅子使用者以外の競技者についても、競技運営の関係上、3回連続投する場合がある。
- ② 投擲競技の記録の計測は、競技運営の関係上、3回の試技のうち最高記録のみを計測する場合がある。
- ③ 投擲競技で車椅子および投擲台を使用する場合、競技役員または補助員がそれらを支持しても良い。また、競技運営上、進行に支障がある為、固定の為の器具は使用しないこと。
- ④ ビーンバック投は、砲丸投のサークル(直径2.135m)を使用する。
- ⑤ 砲丸投への参加は全ての区分において中学生以上とする。

【砲丸重量】

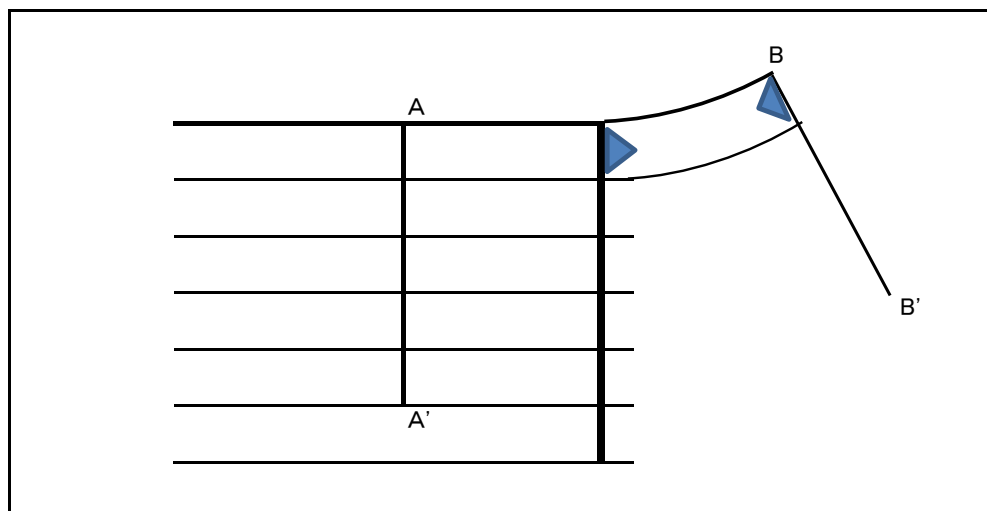
競技区分	肢体1	肢体2		肢体3	視覚	聴覚	内部	精神	知的	健全 (中学生)	健全 (高校・一般)
区分番号	1～9	12	13～15	18～22	24～26	27	29	30	U19A～O36B	32	32
男子	4.0kg	2.721kg	4.0kg	2.721kg	4.0kg	4.0kg	4.0kg	4.0kg	4.0kg	5.0kg	6.0kg
女子	2.721kg	2.721kg	2.721kg	2.721kg	2.721kg	2.721kg	2.721kg	2.721kg	2.721kg	2.721kg	4.0kg

※健全一般男子砲丸の重量は、はばたき陸上大会のセンタールールである。

【リレー】

- ① 異なる競技区分・性別の混合チームによる出場が可能のため、**出場チーム数に関わらずすべてタイムレース決勝とする。**
- ② 4×200mリレーは、本大会「競技種目及び競技区分表」による競技区分該当者を出場対象とするが、**チーム編成には競技区分や性別(割合)の制限は設けない。(混合チーム可)**
- ③ 4×200mリレーに出場するチームの出場者は同一のユニホームを着用しなければならない。**同一のユニホームが揃わないチームは、主催者が用意したビブスを着用しなければならない。(申込時にビブス借用申請を行うこと)**
- ④ 4×200mリレーのスタートは、オープンレーンで行い、**スターティングブロックの使用は禁止する。**
- ⑤ 4×200mリレーのバトンパスは、はばたきオリジナルのテイク・オーバー・ゾーン(20m)を用いる。(下図参照)。バトンの受け渡しはテイク・オーバー・ゾーン外で行われた場合、そのチームは失格となる。
 * 本大会のテイク・オーバー・ゾーンは、1レーンに設けられた「△と▽の間(20m)」とする。
 * 第2・3・4走者は、AA'の内側から走り出し、BB'より内側でバトンの受渡しをしなければならない。
- ⑥ 第2走者はAA'の内側にスタートリストの順序で、インコースから並び待機する。
 第3、第4走者はAA'の内側に前走者にバトンが渡った順序で、インコースから並び待機する。
 第3、第4走者はAA'の内側に前走者にバトンが渡った順序で、インコースから並び待機する。

<テイクオーバーゾーンの図(第1曲走路付近)>



5 表彰について

- ① 各組単位で、原則として同一区分ごとに1位から3位までにメダルを授与する。
また、リレーにおいては1位から3位までのチームにメダルを授与する。
但し、参加者(参加チーム)が少ない場合は下記のとおりとする。
 - ①同一区分の参加人数が3人まで(リレーは参加チーム3チームまで) 金メダルのみ
 - ②同一区分の参加人数が4人まで(リレーは参加チーム6チームまで) 金、銀メダルのみ
 - ③同一区分の参加人数が5人以上(リレーは参加チーム7チーム以上) 金、銀、銅メダル
- ② 参加者全員に記録証を発行する。但し、リレーは1チームに1枚とする。
- ③ 表彰が招集時間、競技時間と重なった場合には、招集と競技を優先すること。
この場合、表彰に出られないことがあるので、競技終了後に本部テントまで受け取りに来ること。

6 介助者について

- ① 本競技会における介助者とは、競技時の「誘導介助」、「競技補助」、「伴走者」とする。
- ② 「誘導介助」とは招集場所までの誘導を行う介助者を指す。「競技補助」とは障害特性上、競技中に補助が必要な選手に補助を行う介助者を指す。「伴走者」とはトラック競技において、障害特性上競技者と並走を行う介助者を指す。
- ③ 選手以外で競技場内に入場できる者は、参加申込書で、競技補助、伴走者、誘導介助者と、その他特段の理由により介助者の競技場への入場を申請し、主催者が許可した者のみとし、人数は参加者1名につき1名までとする。
- ④ 申請し許可されたものは、競技補助は競技補助ビブス、伴走者は伴走者ビブス、誘導介助者は誘導介助ビブスを着用すること。また、それらのビブスは競技終了後、回収場所に速やかに返却すること。
- ⑤ 入場を許可された場合でも競技場内での応援、助言、写真、ビデオ撮影、視覚障害で認められた選手以外への伴走行為、競技進行を妨げになるような行動は禁止とする。これらの行為を行った場合は、選手を失格とする場合があるため、十分注意すること。

7 その他

- ① 天候事情等により競技開始時間が変更されることがあるので注意すること。
- ② リレーオーダー用紙は当日受付時に配布する。13時までに本部テントに提出すること。
- ③ 競技が終了した選手は、ナンバーカードを本部テントまで必ず返却すること。